



日本医療機能評価機構認定病院
京都山城総合医療センター
 Kyoto Yamashiro General Medical Center

発行元 京都山城総合医療センター
 発行元責任者 中井 一郎

「認知症疾患医療センター 地域型」に指定

もうすぐでご存じの方もいらっしゃると思いますが、平成26年3月1日付で、認知症疾患医療センター 地域型に指定されました。認知症についてはテレビや新聞に取り上げられることが多く、皆さんの関心も高いと思います。皆さんが関心をおもちになられるのは、ご自身が認知症にならないためにはどうしたらよいかと、認知症になったらどうしたらよいかということかと思えます。行政の観点からは団塊の世代の最後の世代が後期高齢者を迎える2025年には、多くの認知症患者さんが街にあふれることが予測され、そのような時代になっても困らないシステムを構築しようというところにあるようです。

認知症は風邪のようなありふれた病気であり、どこの診療所、どこの病院でも認知症の患者さんがたくさんおられるものの、認知症であることが困ることは多くないという世の中にしておきたいところです。認知症がありながら、心筋梗塞や肺炎、胃がんや肺がんにかかって入院が必要になっても、急性期の治療を滞りなく受けていただけようにするのが、当院の一番大切な役割です。二番目は、認知症があることで、自宅や地域での生活が困難になりつつある患者さんについて、かかりつけ医の先生からの相談にのり、可能な限り地元での生活を継続できるように支援することです。

当認知症疾患医療センターの理念と基本方針をお示しします。

認知症疾患医療センター 理念

山城南医療圏域での認知症対応力を向上させる認知症疾患医療センター 基本方針

地域の中核病院として、

- ・ 認知症患者さんに対して、必要とされる急性期医療を提供する

- ・ 認知症患者さんに対して、医療・介護担当者等と連携して必要な支援を行う

- ・ 認知症患者さんに対して、適切な対応ができるよう人材の育成を行い、病院全体としての認知症対応力を向上させる

- ・ 地域の認知症に関わる多職種に対して、認知症対応力の向上のための研修を行う

副院長 岩本 一秀

地域包括ケア病棟がスタートしました

当院はこれまで、急性期治療を行う一般病床のみでしたが、8月から8階病棟が地域包括ケア病棟として生まれ変わりました。

地域包括ケア病棟とは、治療終了後、病状が安定した患者さまに対して在宅復帰を図るために医療管理の継続とリハビリを継続する病棟です。入院期間は60日が限度となりますが、医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーなどの多職種が協力し、患者さまが安心して自宅に退院できるようお手伝いをさせていただきます(ソーシャルワーカーの紹介は後述させていただきます)。

地域包括ケア病棟の対象となる患者さまは次のとおりです。

- ① 退院するためにもう少しリハビリテーションを継続する必要がある患者さま
- ② 退院の準備に少し時間のかかる患者さま
- ③ 急性期の治療がほぼ落ち着かれた患者さま

当院入院中の患者さまで、上記に当てはまる方には地域包括ケア病棟を紹介させていただきます。退院に向けての準備をすすめて頂きます。また、地域包括ケア病棟の内容についてご質問などがありましたら、病棟看護師にお声かけ下さい。担当ソーシャルワーカーより説明させていただきます。

地域医療連携室

平成25年度 経営状況

平成25年度につきましては、引続き『第二次経営改革プラン』に基づき、推し進めてまいりましたところ、約2億5,600万円の黒字決算が見込まれることになりました！

【 主な取り組み内容 】

○医療機器等の更新及び建物設備等の改修 (約3億200万円)

購入した主な医療機器等

脳波計(脳波検査装置)、大動脈内バルーンポンプ、負荷心電図装置、手術用顕微鏡、温冷配膳車、透析用監視装置、放射線システム更新、手術室システム更新、輸血検査システム更新、各病棟浴室のリニューアル工事等

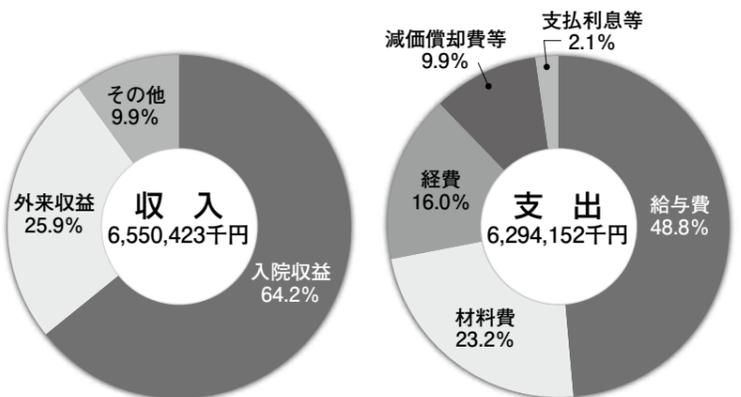
○診療体制等の充実

糖尿病センター、慢性腎臓病センターの設立、女性医師による乳腺外来の設置など診療体制の充実を図り、また、患者サービスの一環として総合案内コーナーの設置などを行いました。

病院開設60周年を迎えたことにより、平成25年度、病院名称を「京都山城総合医療センター」に改称致しました。

平成25年9月1日から中井院長による新体制がスタートするなど、大きな節目の年となりました。

経営担当 川崎 祐二



ソーシャルワーカーが 6名になりました

高齢者を取り巻く社会問題として、認知症による徘徊（はいかい）などで行方不明となる人が全国で年間1万人程度いるだろうとマスコミで報道され、驚かれた方がいらつしやるかもしれません。少子高齢社会を反映し、「老老介護（高齢者が高齢者の介護をすること）」、「独居高齢者」もめずらしくなくなってきました。また、児童虐待や子供の貧困、家庭内暴力なども大きな社会問題となつていきます。

ソーシャルワーカーの仕事は、社会福祉の立場から、前述のような社会問題に対し、その当事者や当事者を取り巻く環境に働きかけることで問題解決を図ることです。

例えば、高齢の方が骨折のため入院されたとします。以前はなんら問題なく日常生活が送れていたのに、歩行能力が低下したことで、自宅内の段差が歩行（生活）の妨げになると予想される場合、ソーシャルワーカーは、患者さまやご家族（当事者）と自宅内の段差解消（当事者を取り巻く環境）に注目し、問題解決を図ります。この例の場合、患者さまやご家族とは、現状の歩行能力や退院後の生活における課題などを共有し、自宅内の段差解消については介護保険制度から住宅改修を提案します。安心して退院して頂くことが我々の役割です。

当院では、地域医療連携室にソーシャルワーカーを配置しています。今年7月にはソーシャルワーカーが6名となり、人数が増えたことでこ

れまで以上にきめ細やかな相談援助ができる体制が整いました。

当院は京都府から認知症疾患医療センター、地域がん診療連携協力病院にも指定されており、認知症やがんに関連した相談援助にも力を入れています。

また、児童虐待や家庭内暴力など、これまで人数的に対応が困難だった相談にも次々と業務の幅を広げているところです。幅広い分野でソーシャルワーカーとしての専門性を発揮し、速やかな不安解消につなげていけたらと思っています。

ソーシャルワーカーへのご相談は、各外来受付、病棟ナースステーションへお申し出下さい。お電話でも相談に応じております。お困りごとがございましたらご相談下さい。

地域医療連携室



後列左側から 松田辰基、中島庸介、南出 弦
前列左側から 中野明子、榊田麻友、濱松佳子

第13回住民医療フォーラムが開催されました

平成26年6月25日水曜日に、当センター9階会議室におきまして、教育委員会主催の第13回住民医療フォーラムが開催されました。「京都府南部地域のがん治療戦略」というメインテーマのもと、中井院長の司会と挨拶で始まったパート



Iでは、京都府立医科大学から泌尿器外科学教授・がん征圧センター長の三木恒治教授をお招きし、特別講演を行っていただきました。三木教授の講演は「前立腺がんのPSA検診とがんの最新の治療」という題名で、前立腺がんの疫学、検診、診断、治療の現状について、他のがんとの比較も交えながら、わかりやすく説明していただきました。参加者からのアンケートでは、「非常にわかりやすい説明でよかったです。」「年齢的にもぴったりのテーマでありがたかった。」「PSAの大切さがよく理解できた。」「また次回も参加したい。」といった声によせられていました。

休憩をはさんだパートIIでは、三木教授に加え、中河院長代理、新井副院長、中田外科部長、伊藤呼吸器外科部長、鈴木泌尿器科医長といった当センターのがん診療を担っている医師をパネラーにして、パネルディスカッションを行いました。各医師からは、前立腺がんやがん全般について三木教授に質問があり、それを題材としてさまざまなテーマで討論が行われました。また、会場の住民のみならず、そのほかにも三木教授にたくさん質問が寄せられ、そのひとつひとつに答えていただく形でフォーラムが進行し、定刻を少し超過しての終了となりました。

今回のフォーラムは、予想を上回る78名の参加者があり、当初用意した椅子が足りなくなるほどの盛況でした。今後も地域住民のみならず、関心の高いテーマを選択して、このフォーラムを続けていく予定ですので、ご協力の程よろしくお願いたします。

放射線科 石原 潔

緩和ケア 認定看護師

昨年9月から病院の支援を受け、静岡県立静岡がんセンターで7ヶ月間の研修に行かせていただきました。そして、このたび緩和ケア認定看護師の資格を取得することができました。

緩和ケアと聞くと「もう自分の命は長くない」「自分にはまだ必要ない」と考えられる方もおられるかもしれませんが、しかし、緩和ケアはがんの病状や時期によってケアを受ける受けないを決めるものではなく、患者さんの体や心のつらさを和らげ、その人の生活やその人らしさを大切にすることもです。そして、対象となるのは患者さんだけでなく、患者さんのご家族の方もケアの対象となります。

患者さんやご家族に対し適切な情報提供と意思決定支援を実施し、また、体や心のつらさを和らげ、その人らしい生活ができるように、看護師として生活の視点を大切にして心のこもった看護を他の職種やスタッフと共に実践していきます。

緩和ケア認定看護師 大西 宏実



ふれあい看護体験

「ふれあい看護体験」は、中学、高校生をはじめ京都府、市民が病院の施設見学や看護体験、患者さんや職員との交流の中で、命の尊さや看護の仕事を理解していただくために京都府看護協会が主催している事業です。

当院も、ふれあい看護体験受け入れ施設として毎年希望者を受け入れて参りました。今年度は7月31日に実施され、府下南部の4高校から6名の高校生が参加されました。車いすでの患者さんの移動や、足浴、手浴、シャンプー、血圧測定や包帯巻きなど様々な看護体験をしました。最初は、緊張気味の参加者も、患者さんの「ありがたう」「気持ち良かった」の言葉に思わず「にっこり」、人との温かいふれあいに看護することの喜びを実感したようです。

新生児室では、新聞社からの取材も有り、大きなカラー写真と、赤ちゃん抱っこ「めっ



ちや笑ってる」の字幕で翌日の新聞、京都欄に掲載されました。

参加された高校生は、「オープンキャンパスでは出来ない貴重な体験をすることが出来た。」「途中で新生児室に行きたいと言う気持ちも有り将来助産師になりたいと言う気持ちが更に強くなった。」「やっぱり看護の道を目指したい」と力強く語っていました。

今後このような取り組みを通して、一人でも多く若者に看護に興味を持っていただき、看護の道へ進む機会を提供していきたいと考えています。

看護部

職場紹介

当院外来は、25の診療科と外来化学療法室、内視鏡室、救急室の一般診療や検査、治療部署に分かれています。

看護師の多くはパート勤務で、子育て中のママや、定年退職後の方まで各年齢層の方々が集まり、アットホームな職場です。勤務形態も個々のワークライフバランスに応じた体制を取り、「イキイキ・ハツラツとした職場環境づくり」をビジョンに、スタッフ一同、患者さん中心の看護を目指しています。平成25年、京都山城総合医療センターに名称変更後、受診者数も増加し、1日平均約550名の方が来院されています。昨年度は、採血室のシステムを変更し、患者誤認防止の為に受付番号を表示するようになりました。診察室でも「お名前を何度もお聞きします」を合言葉に患者さん間違いがないよう確認を行っています。外来診察



外来看護部

の際は、ご協力をお願い致します。外来は、迅速な判断力と観察力が求められる部署です。より安全な医療と温かい看護を目指す為、新しいスタッフを求めています。仕事に復帰しようか迷われている方等、一緒に働いてみませんか。

平成26年度の院内災害訓練並びに京都府総合防災訓練に参加して

今年度は、8月31日に京都府総合防災訓練が木津川市中央体育館を主会場として実施されたのに合わせ、地域の災害拠点病院として連携をとる目的で同日に院内災害訓練を実施しました。

「連携」という観点から、模擬患者役として京都府消防学校の学生さん20名、地域災害拠点病院の支援として、京都医療センターDMAT並びに第2岡本総合病院DMATにも参加していただきました。

当日の短い時間で訓練を遂行するため、災害対策委員会で様々な事前準備をしていましたが、こちらの想定通りにいかないのが訓練で、訓練に参加していた職員は混乱を来していたようです。反省会ではその点の振り返りを行い、次年度の訓練に向けて改めて再確認する必要性を感じました。

場所を移動し京都府総合防災訓練が行われた木津川市中央体育館では、山城DMATとして訓練に参加しました。私は、救護所の赤エリアリーダーとして活動して



ていましたが、院内訓練以上の混乱が、DMAT訓練を受けた隊員の間でも生じており、

訓練の大切さを痛感しました。

当日は訓練だけでなく、災害に関する様々な案内や展示が各ブースでされて

災害時に活躍する様々な重機が並んでいたりと、地震の揺れを体感したり、非常食が配られたり、災害救助犬と触れ合えたり……。人力発電を体験するコーナーでは、中学生が自転車をこいで大きな盛り上がりを見せていました。人気があったのは何と言っても自衛隊の作ったカレーライスやそうめんが振る舞われるコーナー！常に長蛇の列でした。このように、地域で身近に消防・警察・自衛隊・医療と一緒に訓練する機会を目にしていたとき、改めて「防災」について考えるきっかけにしたいだければ幸いです。

最後に準備をしていただいた災害対策委員会のメンバー、看護部災害対策委員会のメンバー、山城DMAT隊員、訓練に参加いただいた方々に深謝致します。



佐々木 康成

子供の靴選びのポイント

子供靴としてもっとも一般的なマジックベルトでとめるスニーカータイプの靴を例に靴選びのポイントを説明します。

1 マジック テープ

締め具合を調節して足にピッタリ固定できる事が大切。ひも靴が理想ですがひもを結べないときはベルトを金具に通し、折り返しでから付けるマジックベルトタイプが適しています。

2 甲の高さ

正しく履いた時、靴の甲が足の甲にピッタリ合っている事を確認。マジックテープやひもの締め具合である程度調節はできます。きつすぎたり、緩すぎたりする場合はサイズをかえるか中敷を入れて調節しましょう。

3 つま先の広さ

靴の中で指が自由に動くよう、適度な広さと高さがある事が大切です。つま先が硬く、靴をたいたらな床に置いたとき、つま先が上がっているもの良いでしょう。履いてみて、つま先に0.5〜1.0cmの余裕があるものを選びましょう。

4 かかとの硬さ

かかとが柔らかい靴や、かかとを押すと簡単に折れて、履き口がパカッと開くような靴はダメです。かかとが硬く、しっかりとした芯(カウンター)が入っているものを選びましょう。かかとが柔らかいと足が靴の中でぐらついてしまうため、足をまっすぐに支える事ができず、変形の原因になります。

5 靴底の硬さ

靴底の材質に、適度な硬さと弾力性があるものを選びましょう。避けたいのは靴底が柔らかすぎて、両手でねじると「ぞうきん絞り」が出来るようなもの。硬すぎて曲がらないもの。硬さや弾力の目安は、コルクの感触を目安に、くつをもって両手で曲げようとしたとき、軽い反発を感じるのが良いでしょう。

6 靴底が曲がる位置

足を入れたときに親指と小指のつけねを結ぶ線に当たる位置で、靴も曲がるかどうか、曲げでチェック、さらに実際に子供に履かせ、歩かせて確認する。足と靴の屈曲線が合っていないと歩きにくく、足への負担も大きくなります。

柔らかい靴は足を支えてはくれません。正しい靴を履かせて子供の足を守ってあげましょう。



フットケアトレーナー 岡村 孝文

看護師再就職 無料 支援セミナー

看護師免許を持ちながら現在働いていない「看護師」さん、再就職を考えていても実際に働けるかと悩んでいませんか。京都山城総合医療センターでは、研修を開催し、現在行っている看護技術や知識を学んでいただき再就職へのお手伝いをさせていただきます。今回は、心電図モニターや電子カルテの操作について、研修を開催します。

日時 平成26年10月23日 (木) 午後1時~3時30分
場所 京都山城総合医療センター 9階「会議室」
申込 平成26年10月21日 (火) まで 看護部へ



介護老人保健施設 やましろ

最近、世間では季節のスイーツの特集などが雑誌やテレビ番組などでもよく取り上げられています。私たちと同じように、老健やましろに入所されている皆様も、おやつをととても楽しみにされています。

老健やましろでは、毎日15時におやつ(おやつ)の時間があります。通常はおまんじゅうやロールケーキなどが多いのですが、最近ご好評をいただいているものに生菓子があります。その季節によって、あじさいだったり、あやめだったり、かわいらしい金魚が泳いでいたり…。その季節をモチーフにしたかわいらしい生菓子は大人気で、おやつ(おやつ)の入った箱を開けた瞬間、ご利用者様やスタッフから「かわいい〜!」と歓声が起こることもあります。



その他にも、毎月1回『おやつ会』が開催されており、ご利用者様と一緒にたこ焼きを焼いたり、クレープを焼いたり、ちよっとしたおやつ(おやつ)のバイキングがあったり…。皆様いつもに増した笑みがこぼれています。

◎ご見学、ご相談等お気軽にお問い合わせください。なお介護職員も募集しておりますので興味のある方はご連絡下さい。

介護老人保健施設やましろ

TEL (0774) 73-0359

看護師 募集

地域の中核病院で一緒に働きませんか

詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.yamashiro-hp.jp/>

待遇 ○地方公務員に準ずる
○期末勤勉手当 年2回(6月、12月)
○定期昇給 年1回

看護部もしくは事務局まで

TEL0774-72-0235

お気軽にお電話ください



- H27年度新入職者
- 中途採用者